

日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン） の取り組みの紹介

黒水 健（企画開発部研究員）

1. はじめに

地域に根ざし、景観に配慮したみちづくりを目指して、平成17年12月7日に、第一回 シーニックバイウェイ（仮称）

戦略会議[※]（委員長：奥田経団連会長）がおこなわれた。本会議では、日本型シーニックバイウェイの考え方や今後の取り組みの方向性、名称等について議論がなされ、これを受けて今年1月、日本型シーニックバイウェイの名称が、「日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャ

パン）」と決定した。また、1月20日には、ケーススタディとしてモデルルート[※]の公募が開始され、日本型シーニックバイウェイは、ようやく本格的な実施に向け、第一歩を踏み出した。

そもそも「シーニックバイウェイ」は、1970年代のアメリカにおいて野外広告

規制運動をきっかけとしてスタートした取り組みであり、昨年秋までに全米で126箇所が指定され、歴史・自然資源の保全や休憩施設、ビューポイント等の整備がおこなわれている。「シーニックバイウエイ」とは、その取り組みの幅の広さから、様々な解釈をすることができるが、わかりやすく直訳するならば、シーニック：景色、バイウエイ：小道・脇道、つまり、「景色に配慮した道」への様々な取り組みといったところであろう。

今回は、先進事例としてアメリカにおけるシーニックバイウエイの概要を示すとともに、日本風景街道の実施方針・今後の進め方等、「日本風景街道（シーニック・バイウエイ・ジャパン）」の取り組みについて簡単に紹介したい。

2. 先進的取組としてのシーニックバイウエイ (シーニックバイウエイアメリカの概要)

(1) シーニックバイウエイ実施のねらい

シーニックバイウエイ実施のねらいは、州や地域によって様々であるが、連

邦道路庁（FHWA）の掲げる主なねらいは以下の通り。

- 合衆国内の景観の長期的維持と充実
- 国内外の旅行者の増加、それに伴う経済効果
- 体験学習の場の提供、教育と理解の機会の創出

(2) 運営体制

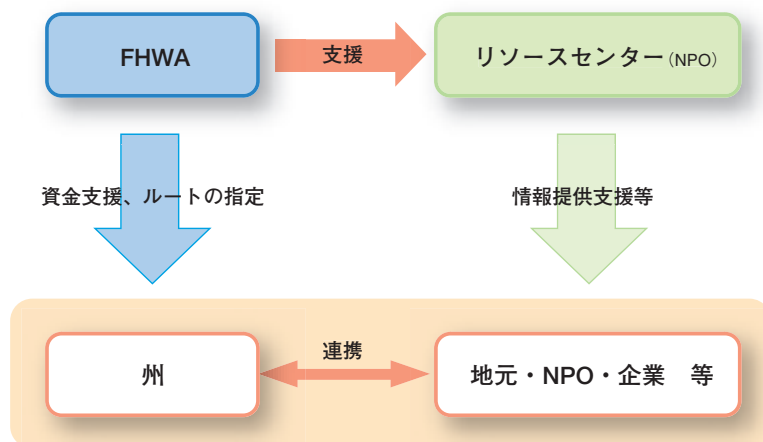
- ◆“FHWA”がプログラムの方向性決定、ルートの指定、資金支援
- ◆“リソースセンター”が情報・技術支援

- ◆“多様な主体”が各地域で参加、活動
- ◆“行政”だけでなく“NPO等”からの支援体制も構築

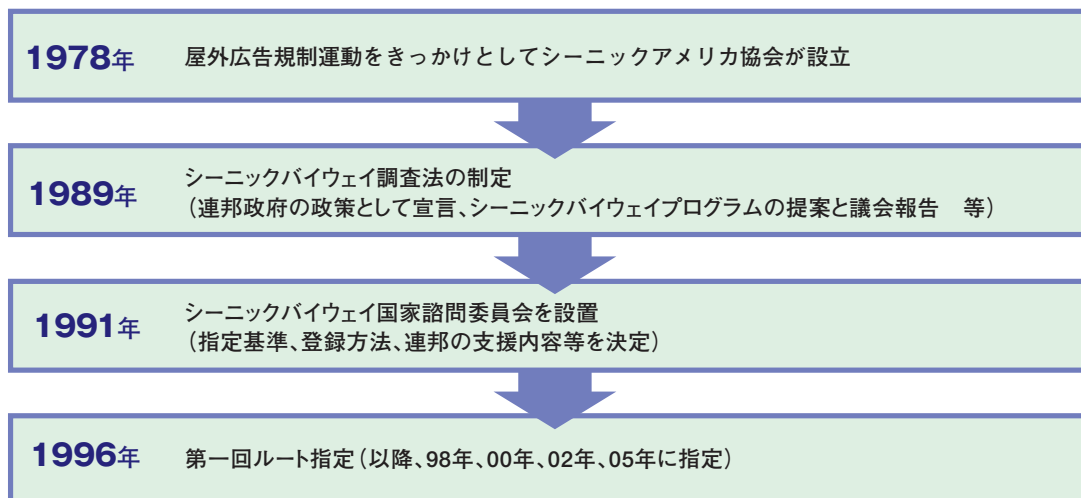
(3) 現在指定されているシーニックバイウエイ

- ◆平成18年1月現在、連邦指定のシーニックバイウエイは、126ルート
- ◆具体的には、①景観性、②歴史性、③自然性、④文化性、⑤考古学性、⑥レクリエーション性の6つの指標から評価され選定される。

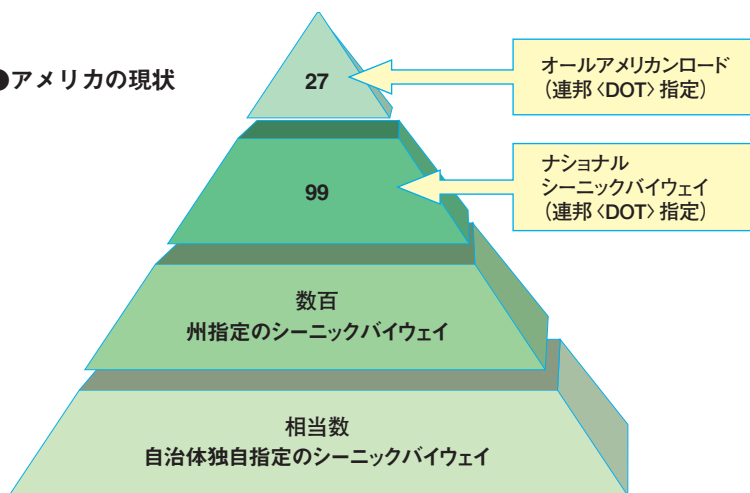
●シーニックバイウエイの運営体制



●シーニックバイウエイ実施の経緯



●アメリカの現状



★：オールアメリカンロード
★：ナショナルシーニックバイウェイ
<http://www.byways.org/> より

3. 日本風景街道 (シーニック・バイウェイ・ジャパン) について

(1) 日本型シーニックバイウェイの方針

戦略会議では、日本型シーニックバイウェイを推進する上で、以下に示す4つの視点、及び基本方針を掲げている。

<4つの視点>

- ① 道の担う役割の復古・再生……交流の場、生活空間としての道の機能を復古・再生
- ② 地域の資産の活用……“人”や“地域に眠る観光資源”等を有効に活用
- ③ 新たな・多様な価値の創造……オープンカフェ・ビューポイントの設置等により楽しめる道を創造
- ④ 使われ方の負の遺産の精算……看板や電柱等の負の遺産を精算し、美しい沿道景観を再生

<基本方針>

「自然、歴史、文化、風景などをテーマとして、訪れる人と迎える地域の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目



George Washington Memorial Parkway
【オールアメリカンロード】



Catoclin Mountain Scenic Byway
(Historic Catoclin Furnace：製鉄炉跡地)
【ナショナルシーニックバイウェイ】

指した美しい道路空間の形成を目指す」

(2) 期待される効果

戦略会議では、日本型シーニックバイウェイの実施によって、下の図に示すような効果を期待している。

(3) 今後の進め方

今後、平成19年度の本格運用を目指し、以下のスケジュールにて実施する予定である。(31ページの図参照)

<モデルルートの公募>

今後、「日本風景街道」の本格的な実施・運用にあたっては、道空間づくりに取り組む地域への支援のあり方、地域が主導

した取り組みを行う上での課題等を把握し、新たな仕組みや制度の検討を行う必要がある。

こうした背景から、今回、ケーススタディとして先行的に取り組むモデルルートを公募する。応募及び選考のスケジュールは以下の通り。

応募受付開始：平成18年1月20日
 応募受付締切：平成18年3月31日
 (消印有効)
 モデルルート選考・発表：平成18年4月
 ※モデルルート公募の詳細は、下記URLをご参照下さい。
<http://www.hido.or.jp/fukeikaidou/>

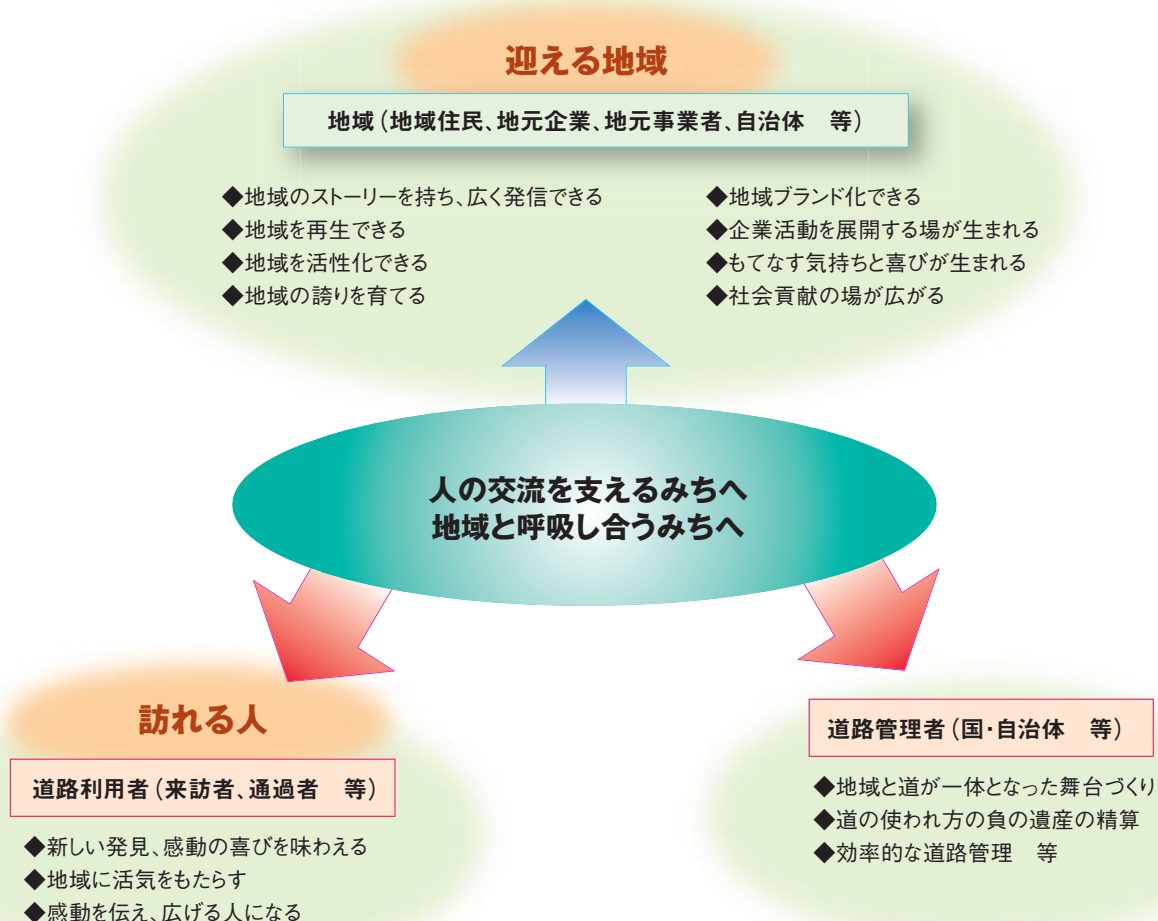
4. おわりに

「“移動”を軸としたみちから、“活動を支える舞台”としてのみちへ」

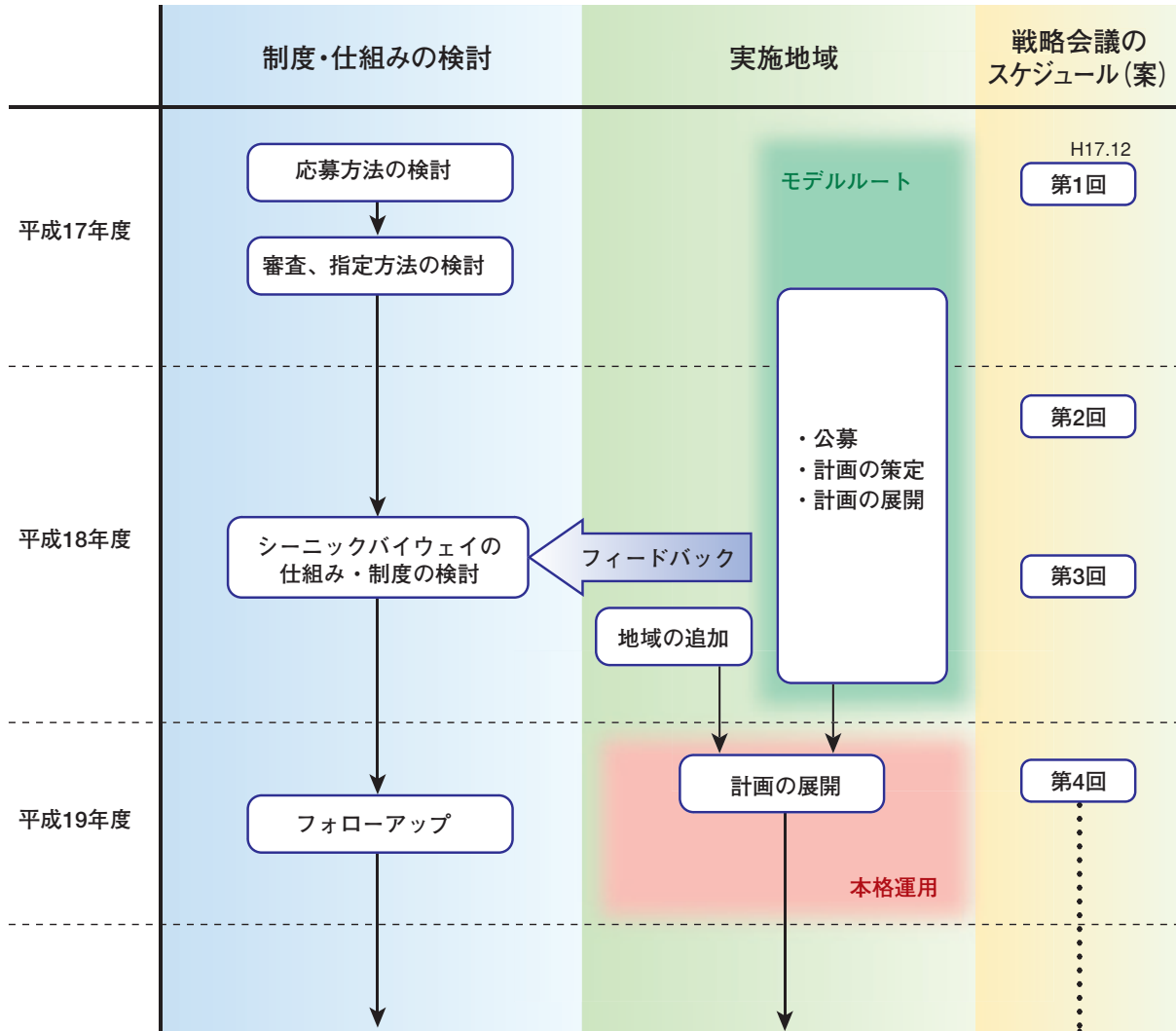
最近、休日に都心を歩くと見ることもなくなったオープンカフェ、また、地域住民のボランティアによる街路樹や花壇の維持管理など、近年、みちを舞台にした活動は、全国の様々な地域で取り込まれるようになった。

「日本風景街道」は、まさにこうした“みち”を舞台にした様々な活動を幅広く支援するための取り組みであり、今後、モ

●日本型シーニックバイウェイの期待される効果



●今後のスケジュール



デルルートにおけるケーススタディを通して、地域固有の様々な取り組みの実施が期待されている。

また一方で、北海道をはじめ、日本各地で既に先行してシーニックバイウエイに取り組んでいる有識者から、これまでに様々な解釈、考え方、また想いが述べられているように、“シーニックバイウエイ”という取り組みに対する認識は様々であり、現時点において明確なルールやメニューがあるわけではない。

結局のところ、今回、新たに決定した「日本風景街道」という言葉が日本全国へ浸透し、“共通の概念”としてイメージされるようになるためには、日本各地で「日本風景街道」としての多種多様な取り組みが表舞台に出て、より多くの人に実施され、そして体験、評価される必要があるだろう。

今後、「日本風景街道（シーニック・バイウエイ・ジャパン）」の取り組みが、地域住民を主体として、多くの場面で、

かつ様々な活動の舞台として“みち”が活用されるきっかけとなり、美しく豊かなみちづくりやまちづくりへ向けた有効な取り組みとして日本全国へ展開されていくことを期待したい。

(くろみず・けん)

※シーニックバイウエイ（仮称）戦略会議とは、国土交通省道路局長が、当該取り組みを推進する上で必要な仕組みや制度、ルートの選考等について諮問するための機関で、財界や民間団体、学識経験者などにより構成される。（第二回目以降は、「日本風景街道戦略会議」として実施予定）